

令和3年感染症発生動向調査概要

1 定点把握対象感染症

(1)小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病

令和3年の報告患者数は9,902件であり、令和2年より1,171件の減少であった。

報告数の多い疾病は、感染性胃腸炎(40.9%)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(26.2%)、RSウイルス感染症(14.1%)の順であった。令和2年に比較してRSウイルス感染症、感染性胃腸炎が増加した一方、インフルエンザ、伝染性紅斑は減少した。

1 定点・1 週当たりの患者報告数で全国平均と比較して高いものは、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(4.61倍)、細菌性髄膜炎(3倍)、ヘルパンギーナ(2.3倍)等であった。

(2)性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症(STD)定点報告対象疾病の4疾病(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症)の全報告件数は499件であり、昨年より8件減少した。

いずれも男性の割合が高く、地域別では西部地区での割合が高かった。また、年齢については、20歳～40歳代に多かった。

(3)基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象の3疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の全報告数は106件であり、昨年より13件減少した。

2 全数把握対象感染症

(1)1 類感染症

鳥取県、全国とも発生はなかった。

(2)2 類感染症

鳥取県では、結核51件の報告があった。

(3)3 類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症10件の報告があった。

(4)4 類感染症

鳥取県では、日本紅斑熱9件、つつが虫病4件、レジオネラ症3件、重症熱性血小板減少症候群1件の報告があった。

(5)5 類感染症

鳥取県では、梅毒15件、急性脳炎(ウエストナイル脳炎等を除く。)8件、侵襲性肺炎球菌感染症8件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症6件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3件、クロイツフェルト・ヤコブ病2件、後天性免疫不全症候群2件、水痘(入院例に限る。)2件、百日咳2件、アメーバ赤痢1件、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)1件、ジアルジア症1件、播種性クリプトコックス症1件、薬剤耐性アシネトバクター感染症1件の報告があった。

(6) 新型インフルエンザ等感染症

鳥取県では、新型コロナウイルス感染症 1,550 件の報告があった。

3 鳥取県内における感染症集団発生件数

令和 3 年の鳥取県での感染症集団発生は、感染性胃腸炎 65 件、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1 件、RS ウイルス感染症 53 件、手足口病 5 件、ヘルパンギーナ 3 件、水痘 1 件の報告があった。

インフルエンザによる臨時休業及び集団発生はなかった。

4 病原体検査状況

受入検体件数 16,401 件で、多い順に新型コロナウイルス感染症 16,253 件、日本紅斑熱 47 件、腸管出血性大腸菌感染症 35 件、感染性胃腸炎 25 件等である。

5 疾患を中心に 5 種類 6 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア、細菌が分離・検出された。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

O146 及び O157 が各 1 件分離同定された。

(2) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

SFTS ウイルスが 3 件検出された。

(3) 日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアが 11 件検出された。

(4) 感染性胃腸炎

ノロウイルス G II 型が 2 件検出された。

(5) 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルスが 879 件検出された。